

「TANAKAのスーパー サッチャー」シリーズ

■ シンプル設計でローコスト化に成功。 危険監視に役立ちます。

- 斜面・法面の崩壊や落石の発生、又は崩壊発生後の再崩壊による二次災害が懸念される箇所に設置することにより、斜面の傾きを感知して音・光による警報を発します。
- 監視対象の不安定な土塊、落石源近傍に杭を打ち込むことにより設置するため、崩壊、変状がどの箇所から発生するか想定しにくい現場にも適します。
- 一箇所当たり設置の手間、費用が少ないため、変状発生箇所の特定が困難な現場でも監視箇所の多点化が出来ます。

形式	シングルタイプ					セパレートタイプ							
機能	感知機能・警報機能の一体型					感知機能と警報機能を分離型							
形式	TSS-S	TSS-S2	TSS-S3	TSS-S5	TSS-S6	TSS-W2		TSS-W3		TSS-W		TSS-W4	
形状													
警報発信方法	警報(音)	警報(音が大きい)	警報(光)	警報(音・光)	警報(光)	感知機・警報機(光)				感知機・警報機(音・光)			
全高(m)	1.1	1.25	1.25	1.4	1.2	0.8	1.0	0.8	1.1	0.8	1.3	0.8	1.3
重量(kg)	2.4	3.5	2.4	3.3	2.6	1.1	1.7	1.1	2.3	1.1	2.8	1.1	3.0
警報音(dB)	87	148	-	87	-	-	-	-	-	87	87	-	-
適用状況	◆地盤変状感知機能と警報発信機能が一体化しているので危険箇所から直接警報が発信します。 ◆危険箇所と工事関係者、通行人、住人などが近接している場合に適しています。					◆地盤変状感知機能と警報発信機能が分離されており、危険箇所からケーブルで連結して警報を発信します。 ◆危険箇所と工事関係者、通行人、住人などが離れている場合に適します。							
適用現場	○土砂崩れ危険箇所 ○崖崩れ危険箇所 ○工事現場 ○雪崩危険箇所 ○急斜面の造成地 ○高い傾斜面の擁壁 ○住宅地に近い急斜面の裏山												

■ 技術比較

	当社の技術	
	スーパーサッチャー	
工法概要	<ul style="list-style-type: none"> ・崩壊の危険性のある法面、斜面等に本製品を設置することで、法面等に発生する傾き変位を感知して警報を発し、周囲に避難を促す技術です。 ・電源を必要としません。(9v乾電池2個で作動/年間) 	
工程・工期	1日/10箇所 (75%向上)	
品質	360°全方向への傾きを感知可能です。	
設計条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテク ・1箇所あたりの設置作業が安易となり作業時間が短縮できます。また低価格設定のためコストが削減されます。このためご予算内で多点に設置することができ、監視エリアがひろがります。 	
	他社の技術	
	伸縮計	斜面崩壊センサ
工法概要	<ul style="list-style-type: none"> ・変位のおそれのある土塊と不動箇所とに杭を設置、それらの杭をインバー線をつなぎ、インバー線の緊張や緩みを伸縮計で感知することにより、土塊の変位を監視、計測する技術。 	<ul style="list-style-type: none"> ・崩壊の危険がある斜面に無線センサ端末を内蔵した杭を設置し、崩壊の監視・警報を行う技術。
工程・工期	4日/10箇所	0.83日/10箇所 (1日/12箇所)
品質	インバー線引張方向から大きく外れる方向の変位は感知が困難な場合がある。	3軸加速度センサにより、全方向への変位感知が可能と考えられる。
設計条件	1箇所あたりの設置手間、費用が大きいため、切土法面崩壊や落石など発生箇所予測が難しい現場での多点監視には非効率である。	1箇所あたりの設置手間は少ないが、設備費用(特に初期費用)が大きいため、監視箇所の多点化には経済性が問題となる場合がある。